

Sharing Nature Life

自然に暮らす

遊んで、
学んで、
楽しんで!

シェアリングネイチャーライフ

2015
VOL.

10

秋

「子ども」という 自然 “森のようちえん”にみる おとなの居方^{いかた}

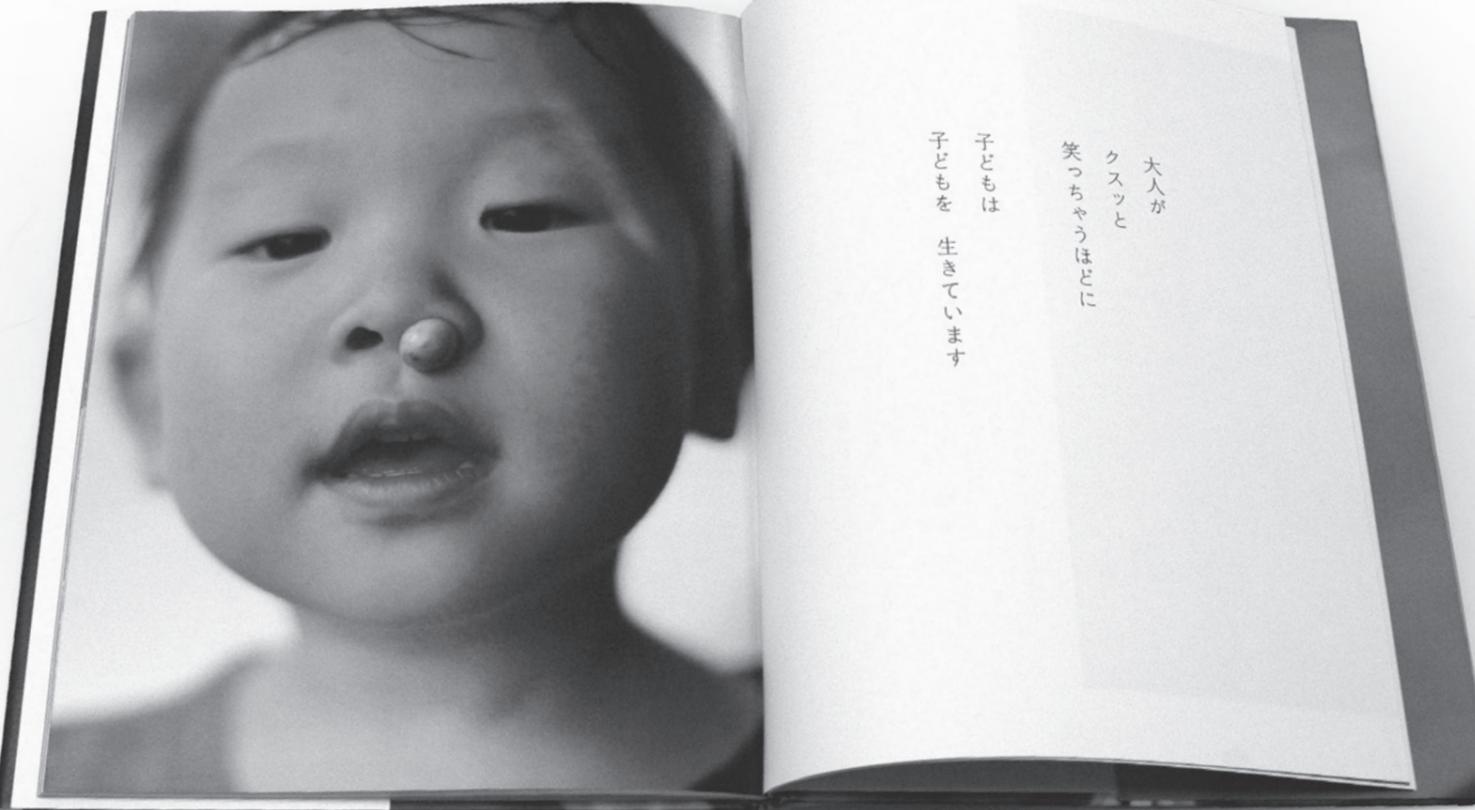
<http://www.naturegame.or.jp/>



自然に寄りそう 未来につなぐ
公益社団法人
日本シェアリングネイチャー協会



スポーツ振興くじ助成事業



大人が
クスッと
笑っちゃうほどに
子どもは
生きています
子どもを

出典・引用『子どもは子どもを生きています』
写真・ことば/小西貴士 発行/フレーベル館

“森のようちえん”にみる
おとなの居方

森の生きものといふ

子どもたちの時間

雨上がりの清里の森。野外で思い思いに遊ぶ子どもたちを見てみると、世紀の大発見をしたかのような真剣なまなざしで地面の穴をつついていたり、小さいながら一所懸命友だちの世話を焼いていた、じつに自由で独創的です。

もしかしたら、都市生活のなかで「危ないから」「汚いから」「周りの人にうるさい」としかられそうだから…と気づかぬうちに蓋をしているかもしれない。子どもたちの素の行動の向うにある表情。それを久しぶりにじっくりと味わったような…そんな時間が流れます。

ここは公益財団法人キープ協会が運営する清里聖ヨハネ保育園。最近ではあちらこちらで聞かれるようになった、『森

思わずクスツと笑ったり、ときには吹き出したりそして胸がキュンと熱くなる。小西貴士さんの写真に写る子どもたちを見てみると今まさにそこで動いているように感じられそして森は、多くの命を抱えて確実にそこに在る…のです。そんな彼の視線に惹かれて、清里の森を訪ねてみました。

森と子どもを見つめる
【写真家】
【森の案内人】
小西貴士さん



ハケ岳南麓、標高1,400mの清里高原で森と子どもをテーマに写真を撮る。日本写真家協会会員、公益財団法人キープ協会・清里聖ヨハネ保育園森の保育担当。

インタビュー/編集部・伊東久枝
文/伊東久枝

自然をまるかじり

No.10

影を遊ぶ



秋になるにつれ、影の存在が際立ってくる。

自分の影が長く伸び
宇宙人のようにスリムになるのが面白い。

子どもたちと手を取りあって…

木と自分の影を組み合わせて…

面白い影のかたちを創り出すのも

深まる秋の楽しみのひとつ。

ひときわ影が伸びる夕方を待ち、外に出れば

目の前に大地のキャンパスが広がる。

「シェアリングネイチャー」
それは、人が自然を尊重し
共生していく社会のキーワード。
公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会は
「自然と遊び、自然から学ぶよろこびにあふれた生活」
—をおくる人の輪を広げる活動を行っています。

Sharing Nature Life

シェアリングネイチャーライフ

2015 VOL. 10 9月号 秋

contents

自然をまるかじり	2
特集 ●「子ども」という自然	3
イベントレポート	7
被災地復興支援情報	7
News	7
自然が先生! ●おいしい、うんこ	8
ネイチャーゲームで体験しよう! (つながりの一歩)	8
SNLな仲間たち ●タイ…マクビライさん・リムジャルーンさん	10
プレゼント	10
ジョセフ・コーネルの課外授業 ●2匹のイヌが見たものは?	11
四角友里 ●なんにもしないアウトドア	12

編集後記

リーンリーン…チンチロリン…。コオロギやスズメシなどの鳴く虫たちの声で季節を感じる。これは日本人にとってはごく当たり前の感性のように思うが、じつは「世界中でこのような文化を持つのは日本と中国だけ」と知り、驚いた。今年の秋は、虫の声をたよりに音で自然を愛でながら、身近な自然探険へ出かけてみたい。(佐々木)



木登りを「見る」とか「撮る」というのも、その子への応援のひとつ



何の憂哲もない雪玉ひとつが、その子にとって宝物になります



撮っていていいのか、助けにゆくのか、判断はいつも一瞬だよ

の時間を子どもたちとともに森で過ごしています。

「子どもが生きる」というリアリティを伝えたい

「こんなふうに育ってほしい」だけではなく、「こんなふうに育ってゆくんだ」に惹かれていた姿勢。それは森との付き合いや写真が教えてくれたことでもあると、小西さんはいます。

「写真とガイドの仕事は似ていて、どちらも『対象ありき』なんです。命がそこで輝いていることを肯定できないと、撮れないし伝えられない」

森でタンポポの綿毛が飛ぶ瞬間を狙っているとき、最後の一本がふわりと離れる絵を思い描いていると、強風が吹いて種はパタリと倒れてしまう…。自然なかではそんなことの連続。でも、それが命のリアリティであり愛おしさではないかというのです。

「自然は、ぼくたちが望んでいる通りにすべてがうまくゆくわけではないですね。トンボの羽化に立ち会っていても、ぼくの願いとは離れて、羽化の最中に強風に吹かれて池に落ちてしまうものもある。じゃあ、その命はダメだったかというところではない。そうやってしまったことまで含めて愛おしく思える感覚が、命の輝きを知ることなんだろうと思うんです」

続ける葉があったり…。

自然のそういう幅を知っているの、子どもたちの幅も認めやすくなっているのではないか。これは小西さんの自己分析。一人だけ他の子と違う行動を取っても、特別なこととしてではなく認められるのだろうと…。

そして、「小さな人たちがこそが、物ごとを肯定的に捉える天才」だといいます。虫喰いがたくさんある葉をおもしろがったり、今そこに起こっていることに素直に興味を示す。葉の機能を考えたら虫などに喰われないほうがいいはず、などとは考えることなどせずに…。

「小さな人たちと森に行くとおもしろいんですよ。そして、小さな人たちは、見れば見るほど「自然」です。「人という命が本来持っている自然」がもっとも見えやすい存在だと思えます」

「本当に危ないこと」と「危ないこと」は違う

自然であることを認める…といっても、危険なところでも子どもたちを自由にさせていいということではありません。ただ、「本当に危ないこと」と「危ないこと」は違う」というのです。

「危険性について子どもたちに知らせることは必要です。でも、例えばスズメバチという存在そのものが危険だから排除せよという捉え方は、短絡的ですよね。

のようちえん』のひとつです。雨の日

も雪の日も子どもたちは森へ出かけ、1日の大半を自然のなかで過ごします。

「命」のことは、よく観察しているとその面白さが見えてくると思うんです。小さな人たちは当然ながら「未熟」で「足りない」のだけれど、それを育てなきゃ、補わなきゃ、としか思えなかったら、私たち大人が小さな人たちとともに暮らす毎日って、なんてつまらなくなってしまうだろうと思っんです」

そう話すのは、森と子どもの写真に多くのファンを持つ、写真家・小西貴士さん。彼のブログ『ゴリの森のようちえん日記』をのぞくと、その言葉を裏付けるかのように躍動感あふれる子どもたちの写真と、彼らを愛おしく見つめる小西さんの言葉が並びます。これらの写真と文章は、『子どもは子どもを生きています』（フレーベル館）などの写真集となつて、すでに書店でも手に取ることが出来ます。

しかし、小西さんが写真を自らの活動の中心としたのはごく最近。もともとは自然学校でインタープリター（自然ガイド）をしていました。今も『森のようちえん』の活動に関わり、多く

小さな人たちは、見れば見るほど「自然」。「人の自然」がいちばん素直に出てくる存在…。



夢中の遊びには、数値化できない豊かさがあるよね



命の幅にあふれる「森」

「森は、命の幅を、命そのものの可能性を認めやすいというか、認めざるを得ない場所なんだと思います。だから、教育も絶対的より相対的な方へと流れやすい。一人ひとりの子どもがもつ「命の自然性」を、態度として認めやすくなっているような気がします」

森を歩いていると、周りがまだ青々とした緑の葉を繁らせているのに、1枚だけ先に紅く染まっている葉があったり、逆に冬枯れの森にいつまでも紅葉を見せ

【特集】
「子ども」という自然
…“森のようちえん”にみる おとなの居方

ちいさな人の器いっぱい、無条件の優しさを注ぐ人が必要



5歳の確かなイメージを持たなきゃ、5歳の美しさが埋もれちゃ

どこでどんな暮らしをしていても「暮らす」感覚が確かな人がいい。

秋、気温が下がってきたころ、熟れたヤマボウシに必死にかじりついているスズメバチの様子を子どもたちと一緒に観ることは、スズメバチの毒針の危険性を伝えることと同じくとても大切なことです。そういう「命としてのスズメバチ」の感覚に気づいてこそ、「共存」の感覚に気づけるのではないのでしょうか

何が危険なのかを見極めることは本当に難しい。けれど、簡単に「危険」だと線引きをしてしまい、人として育つ可能性を奪ってしまうのは違う。だから、「日悩みながらあきらめずにやっていくしかない」のだと、小西さん。「子どもの集団と安全に暮らしてゆぐためには、ある程度のラインを引いて、『ここまでしようね』と伝えなければならぬ」とあります。それは現実で



写真・写真のことば/小西貴士

第25回全国ネイチャーゲーム研究会 in 大分

Event Report 1

大分県別府市を拠点に開催された研究大会は、全国から170余名が参加し、大盛会のうちに終了しました。豊かな自然と人情味あふれた、おんせん県おおいたをたづねたり楽しんでいただけたいと思います。タイから参加されたゲストのみなさんが行ったアクティビティも盛り上がりを見せ、国境を越えたネイチャーゲームのつながりと可能性を実感できました。

大分県協会では、今大会の企画・運営により得た成果を基に、仲間同士で情報や意見交換などをより深めていくために「学びあい自主研修」を行っていくことにしました。



第4回ネイチャーゲーム研究集会

Event Report 2

昨年大雪のため中止となった研究集会のリベンジ「保育力を磨く自然体験活動」に参加してきました。北は岩手、南は岡山から集まった参加者の多くが幼稚園、保育園などの教育関係者。ネイチャーゲームを自然体験活動を行う手段のひとつと考え、保育(遊び)のなかでどのように実践できるのかを考えました。午前中は自然体験の意義や指導者の在り方を理論的に理解し、午後は演習を通して指導を確認。指導員の資格取得後、久々にネイチャーゲームの魅力を確認した一日でした。



被災地復興支援情報

夏休み★ひろしま七日間冒険の旅

7月20〜26日、福島から7名の子どもたちが広島県三次市にある自然学校「ほしはら山のがっこう」を訪れ、冒険旅行を楽しみました。

地域の自然探検やお宅訪問、冒険マップ作り。そして、竹細工に川遊び、樹齢500年のケヤキの樹上から眺めた風景に感動したツリーリング(木登り)。地元で採れた新鮮な野菜と自分たちで釣った川魚もおいしくいただきました。

また、原爆の子「楨子」の像を訪ね、広島お好み焼きの原点「一銭洋食」や広島復興の話も聞き、戦争の酷さも学んだ1週間でした。50名以上の地域の子どもたちともふれあい、最後には全員が「冒険者」としての認定書を無事受け取って、子どもたちの「ひろしま夏の旅」は終了しました。



FUKUSHIMA HAPPY PROJECT

福島避難親子支援プロジェクト

ココカラ子ども大学 今年もやります!

福島から避難している親子を支援する団体「NPO法人ココロとカラダを育てるハッピープロジェクト」と協働で自然体験プログラムを実施します。運営スタッフ・ネイチャーゲーム指導スタッフ募集中!

実施日:
 ●10/31(土) 神奈川県川崎市・黒川
 ●12/5(土) 東京都八王子市・高尾山
 ●2016-1/30(土) 神奈川県横浜市・つくし野

問い合わせ先: mizushina@naturegame.or.jp

News

●役員改選 新理事・田中誉人
他理事15名、監事2名は全員留任

地域実践団体の設立・解散

●設立
えんぼうシェアリングネイチャーの会(大分県)

●解散
北海道教育大学課程認定校研究会(北海道)、山村学園短期大学課程認定校研究会(埼玉県)、光シェアリングネイチャーの会(山口県)、長門シェアリングネイチャーの会(山口県)、あいらネイチャーゲームの会(鹿児島県)、くへの松原ネイチャーゲームの会(鹿児島県)、曾於ネイチャーゲームの会(鹿児島県)

専門委員会報告

■指導者養成委員会—5月18日(月)
 ◆全国研究大会の日程・会場・テーマの承認
 ◆インストラクター研修講座の検討
 ◆インストラクターハンドブックの検討 他

■シェアリングネイチャー普及委員会—6月17日(水)
 ◆シェアリングネイチャーサイト、モデル園報告
 ◆シェアリングネイチャー普及賞の検討

■アクティビティ開発認定委員会—7月24日(金)
 ◆新ネイチャーゲームの一次審査

全国銘菓お茶っこ広場 開催中!

●岩手県大槌10/18(日)
 ●宮城県雄勝11/1(日)

あなたの地元銘菓を被災地に送って下さい。現地に行くボランティアも募集中です。詳細はHPトップの「News&トピックス」から

全国一斉 シェアリングネイチャーの日

10月18日(日)、いつでもどこでも誰とでも、自然を楽しんだその場所がイベント会場になります。詳細はHPトップの「News&トピックス」から

シェアリングネイチャー普及 30周年記念事業決定

来年は日本にシェアリングネイチャー(ネイチャーゲーム)が紹介されて30年にあたります。創始者ジョセフ・コーネルを招いての記念事業を企画中です。詳細は決定次第HPや本誌でご案内いたします。

【30周年記念事業】
 2016年9月末〜10月初旬を予定

「無償の愛」が存在する社会を

「現在は『暮らし』よりも上位に『経済』がくる社会。これは、命の在り方としては、やはりゆがんだ社会だと思ふ」という小西さん。ただし、単純に昔の生活に戻ればいいと考えているわけでもないとも。「どこで暮らしているわけでもない」と。「どこで暮らしても、暮らす」感覚を確かに持ち、仕事や政策に反映できるような人になつてほしいんです。

田舎で暮らしていると、近所のお年寄りが野菜や卵など自分たちが育てたものをよく分けてくれるのだそうです。かと思えば、小西さんが育てたものも遠慮なく持って行ってしまうこともあつて、びっくりだとか。

でも、最近「人が人らしくある社会」というのは、育てたり採ったりした食物を分けあひながら、共感や共存の文化を引

人であるという自然と想えば、いろいろな見え方がある感じがうれしい



『子どもがひとり笑ったら...』
 写真・ことば/小西貴士
 こんな風に子どもに接することができれば、もっと毎日がやさしく、そして子どもが愛おしくなる...と思わせる一冊。子どもの側にいる大人たちへ。フレーベル館発行/1,600円+税

小西さんより
 こどものとも『みてみて!』をプレゼント
 読者アンケートに答えていただいた方の中から抽選で2名の方にプレゼントいたします。詳しくは、本誌P.10をご覧ください。

ちいさな人の中に人としての自然性を見出して暮らす
 小西貴士
 私のシェアリングネイチャー



おいしい、うんこ

現代社会では不潔なもの、恥ずかしいものとして、人目に晒さず葬らうとされがちな、うんこ。
ところが…自然界ではうんこは宝!!



日置光久 (ひおき みつひさ)・監修
東京大学大学院教育学研究科特任教授。広島大学大学院にて理科教育学、自然体験・メディア論、科学哲学等を学ぶ。広島女子大学助教授、文部科学省教科調査官・視学官等を経て、現職となる。日本シェアリングネイチャー協会理事。

イラスト/井上みさお
構成・文/伊東久枝

離乳食

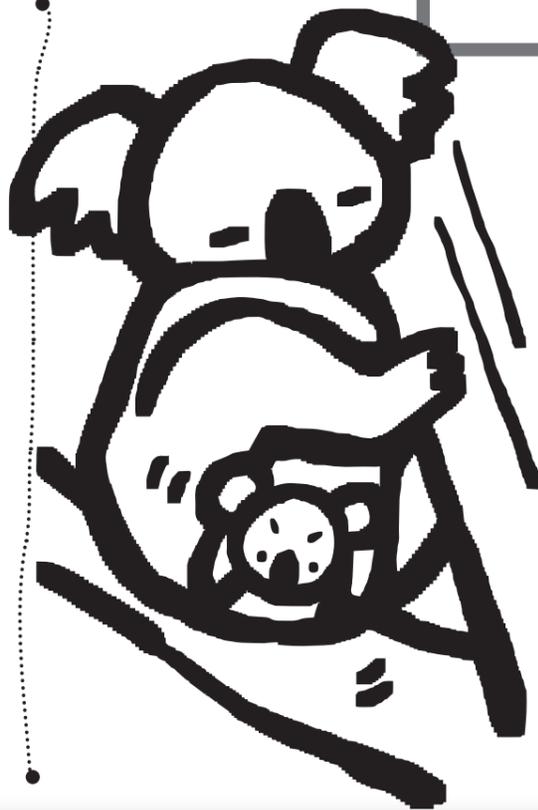
コアラのママは「ロうつし」ならぬ

尻うつし?

多くの生物のうんこは単なる食物の…かすではなく、別の生物にとつての「ごちそう」だったりします。自然界では、誰かのうんこは誰かの食事となつて、うんことして放置されている時間はじつは短いのです。

なかには、コアラのように、離乳食として子どもに与える動物も。また、ウサギは一般的に知られるコロ

腸内細菌も「ママ」の赤ちゃんから。



母親のうんこから、ユーカリを消化・解毒する特殊な腸内細菌も受け継ぐ。

うんこから広がる Nature Game

つながりの一歩

大人にはタブー視されがちな「うんこ」…でも、なぜ子どもたちは「うんこ」が大好き。好奇心を刺激して、うんこから広がる「自然のつながり」を学んでみよう。

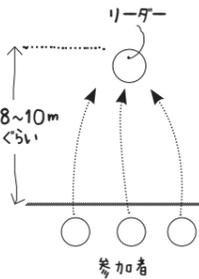
【楽しみ方】

準備：自然界にある「うんこ」のカードを参加人数分、それらのうんこ「つながり」がある自然物のカードを10枚程度用意します。

①参加者に一人一枚ずつ「うんこカード」を配ります。



②リーダーは「つながりカード」を持ち、参加者から8〜10m ぐらい離れて立ちます。



③リーダーが「つながりカード」を一枚見せます。そのカードに書かれていることと、自分のカードのうんこの間に「つながり」がある参加者はリーダーに向かって一歩前に進みます。

④③を繰り返し、参加者の一人がリーダーにタッチできたら終了。みんなが気づいたことなどを話し合います。

コロうつちとは別に「盲腸便」という柔らかい便をし、なんと肛門から直接食べてしまいます。
これらは消化しにくい植物を一度腸内で分解・発酵させて、吸収しやすくするしくみ。こうして植物に含まれる多くのビタミンやアミノ酸を吸収しているわけです。4つの胃を持ち、反芻や発酵を行って栄養を得るのはウシやヒツジなどの偶蹄類。しかしそのような進化をせずとも、こんな栄養吸収の手があるとは…生物の進化と知恵はじつに多様です。



ウサギは消化しにくい食物を盲腸内で発酵させ、一度便として排出し、再び食べる!



ゾウのうんこは栄養いっぱい
やがては森になる!!

食物の50%以上を未消化のまま大量の糞として排泄することもあるゾウ。干ばつが襲い食物がなくなると、多くの草食動物がその糞を食べるとも…

ネイチャーゲームとは

1979年に米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネルにより発表された活動です。見る・聞く・触る・かぐなどの感覚をつかって、自然を楽しむ、自然と仲良くなるためのプログラムです。



イラスト/井上みさお



ジョセフ・コーネルの 課外授業

「シェアリングネイチャーライフ」をひも解くコーナーです。ネイチャーゲームの創始者J・コーネルの講演録から未来に伝えていきたい言葉をピックアップしてご紹介します。



2匹のイヌが見たものは？

これは、一緒に旅をしていた2匹のイヌの話です。

1匹はいつも機嫌が悪くブンブンしているイヌでした。ネガティブな性格で、不平ばかりいっていました。このイヌがある日、一軒の家に入って行きました。そして周りを見回すや否や、飛び出し、逃げて行ってしまいました。



もう1匹は気だてのいいイヌでポジティブな性格でした。彼は友だちが逃げ出した家に何があるのか気になり、なかに入っていました。ところがそこは心地がよく、長い時間を過ごし、満面の笑顔で出て行きました。



では、質問です。この家のなかにあった、イヌに正反対の反応をもたらしたものは何だったのでしょうか。

そこにあったのは、100枚の鏡です。

このエピソードに表されているように、私たちを取り巻く世界は自分の在り方に左右されています。問題ばかりに目を留めていると、人生はそうになっていきます。身の回りの問題は解決不可能のように思えてきます。しかしポジティブな気持ちでいれば、そこに可能性が見えてきます。そして、ポジティブな態度は周りの人たちからも、最良のものを引き出すことになるのです。

Joseph Cornell
1950年米国生まれ。野外活動インストラクターを経て1979年「Sharing Nature with Children」発表。以後、世界的なナチュラリストとして活躍。当協会名誉会長。

木を抱きしめよう



公益社団法人
日本シェアリングネイチャー協会

2015年
10/18(日)

全国一斉シェアリングネイチャーの日



<http://www.naturegame.or.jp/>

前を向け。未来たち。

追いかけて来い。追い抜いて行け。若い君たちの可能性こそが未来だ。

スポーツは育てることできる。

toto
FOR ALL SPORTS OF JAPAN

toto・BIGの収益は、未来のメダリストの発掘・育成に役立てられています。

www.toto-dream.com ©19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。私営金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター



タイの自然をまるごと守る!
タイ・野生動物保護協会
アンカー・マクビライさん(右)
パイロート・リムジャールンさん(左)
Wildlife Conservation Society
<http://www.wcs.org/>

自然は友だち。だから、ピンチのときは助けるんだ!

という確かな手応えを感じました。

ネイチャーゲームの魅力はなんといっても「分かりやすさ」、そして「楽しく活動するなかで自然のしくみを理解できること」です。参加した人たちが世代を超えていっしょに楽しみ、やがてのめり込み、野生動物のことを学んでいく様子を見ると、今でもそのすばさを感じています。

トラなどの大きな野生動物と出会うことしか期待していない子どもたちに「カモフラージュ」をすると、予想以上にハマリプログラムが終わってもまだ目を凝らして小さな虫を探している...ということがありました。

ネイチャーゲームをする前後とは、子どもたちの森の見方や自然に対する行動がガラリと変わります。足元の自然に目が向くようになり、これをきっかけに「小さい生きものが森では大切なんだ」という学びにつなげることが出来ます。

私たちが伝えたいのは「自然は友だち」だということ。自然はたくさん恵みを私たちに与えてくれますが、何も求めてはこない。だから、自然がピンチのときには、友だちを助けるように助ける! そのような人を増やしていきたいんです。

最初は「どっかい動物に会いたいのかな」って思ってたんだけど...

イラスト/初澤久美 取材/佐々木香織

アンケートが投稿しやすくなりました Present

アンケートに答えてシェアリングネイチャーグッズをゲットしよう

アンケートは...
◆HPトップページから <http://www.naturegame.or.jp/>
◆メール・FAXでも sasaki@naturegame.or.jp
FAX 03-5363-6013

メール・FAXの場合は下記をご記入ください【アンケート項目】
1. お名前 2. ご住所(会員番号) 3. 本誌の評価(A.とても良い/B.良い/C.普通/D.良くない) 4. 良かったコーナー 5. プレゼント希望(①/②/③) 6. ご意見・ご要望

自然がつかがる、興味がひろがる、楽しいカード20枚!

① 子どものとも『みてみて!』サイン本 2名様
特集で紹介した小西貴士さんの写真に谷川俊太郎さんの詩をのせた写真絵本。ページいっぱい写る自然と出会った子どもの手・手・手。どんな匂い?どんな感触!? 思わず声をかけたくなる写真ばかり! 定価: 410円(福音館書店)

② [ネイチャーループ]カード 2名様
本誌p8で紹介した(つなごりの一歩)にも使える、土、雨、たね、キツネ...など20種類の自然の要素が描かれたカードです。シンプルなイラストで、アイデア次第でいろいろな使い方ができます。(P.8参照) A6サイズ 20枚入り 定価: 1,235円

③ ビッグシェアシート 1名様
広げて、並べて、眺めて...この季節に大活躍のアイテム。黒布なので色や形の違いも見やすい! みんなで囲める1m×1mサイズで、わずか185gと軽量。丈夫で乾きやすいのもうれしい。定価: 1,980円

月と
目をあわせて
みよう



里山にあがって、じっと鑑賞した真っ赤な皆既月食



天体望遠鏡からみた月の表面はまるで生き物の肌のよう。「月に行ってみよう!」と思わずはしゃぐ



なんにもしない アウトドア



肩にかけた荷物も、ばんばんになった足も重くて、泣きそうになる帰り道。うしろから呼ばれた気がして振り向くと大きな黄色い月がこつちを向いていて家路を見守るその存在に、足取りが軽くなった。

満天の星が隠れてしまう都会の空にだって月はいつも姿を見せてくれる。

満月をみると「あれからひと月たったのか……」と満ち欠けが示す時間でここに刻まれたシーンが蘇ってくる。空や季節が告げる。時が響きあい体内時計も調律されるみたいだ。

天体望遠鏡から、月や星をのぞくとあつというまに視界から移動して追いかけるのが精一杯。

ふと、わたしが立ち止まってしまふときもこの地球が、こんなにすごい速さで動いているならいつだって、知らぬうちに前に進んでいるようだなんだかほつとする。

今度の週末は、ひさしぶりに庭で野宿して宇宙を見上げながら寝袋にくるまって眠ってみようと思った。

Yuri Yosumi profile

白百合女子大学卒。執筆、講演、ウェア開発を通し、「大自然と自分らしいスタイルでつながりたい」というメッセージを発信。山スカートの先駆者、着物着付け師としての顔ももつ。現在、フリーペーパー『山歩みち』などで連載中。著書に『デイリーアウトドア』他がある。

My Book



『一歩ずつの山歩き入門』¥1,200+税
女性の山歩きデビューから2泊3日の山小屋泊トレッキングまで、四角友里流のノウハウを全公開。

